

バレーボール競技におけるトータルディフェンスについて —サーブ戦術と攻撃参加人数の関係性—

石川 愛恵¹ 藤井 壮浩² 栗山 雅倫²

¹東海大学大学院体育学研究科 ²東海大学体育学部

I. 背景及び目的

今日のバレーボール競技における多様なコンビネーション攻撃に対するブロック戦術は、更なる高度化が求められている。しかしブロック戦術の研究は数多く行われているものの、ブロックとその他のプレーとの関係性について言及した研究は少ない。先行研究の結果からブロックの枚数が増えるほどアタックの決定率は低下する¹⁾ことが示されており、攻撃参加人数とブロック枚数の関係性の研究においては攻撃参加人数が少なくなるとブロック枚数を増やすことが可能であると明らかになった。したがって、攻撃参加人数を減らすことはブロック戦術を有効的に遂行するための前提条件であると考えられる。そこで本研究では、トータルディフェンスの視点からサーブと相手の攻撃参加人数の関係性を明らかにすることで有効なブロック戦術を遂行するためのサーブ戦術を検討することを目的とした。

II. 方法

1. 分析対象

2018年度秋季関東大学女子一部バレーボールリーグ戦において、過去5年間を通して一部リーグに所属した5大学の試合。

2. 分析項目と分析方法

Data Project社Data Video2007を用いて以下の分析項目のプレーシーンを抽出し、記録用紙に記入した。

(1) サーブ

①サーブの種類…フローター：FS, ジャンプフローター：JF, ジャンプドライブ：JD

(2) レセプション

①パサー…後衛プレーヤー：B, 前衛プレーヤー：F

②パス評価…A：Very Good, B+：Good, B-：OK, C：Bad

(3) レセプション時の攻撃参加人数：App

3. 統計

社会情報サービス社エクセル統計2015を用いて対応のない多元配置分散分析を行った。また、有意水準はすべて5%未満とした。

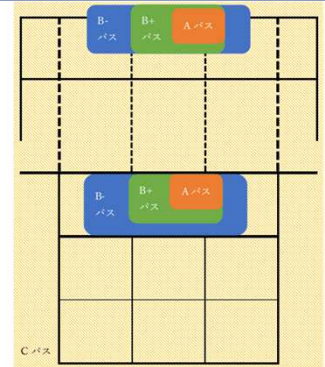


図1 パス評価の定義

III. 結果及び考察

表1 攻撃参加人数に影響を与える因子

因子	セッター前衛	セッター後衛
サーブ種類	0.3951	P < 0.001 **
パス評価	P < 0.001 **	P < 0.001 **
パサー	0.0456 *	P < 0.001 **
サーブ種類×パス評価	0.5170	0.0081 **
サーブ種類×パサー	0.8174	0.0364 *
パス評価×パサー	0.0522	0.0032 **
サーブ種類×パス評価×パサー	0.6494	0.0365 *

セッター前衛時ではパサーとパス評価に
有意な主効果が認められた

セッター後衛時ではすべての組み合わせ
において有意な相互作用が認められた

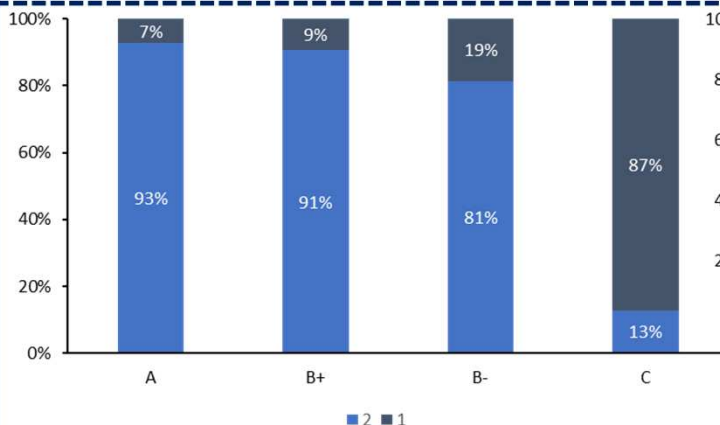


図2 セッター前衛時の攻撃参加人数の内訳(パス評価)



図3 セッター後衛時の攻撃参加人数の内訳(サーブ種類×パス評価)

相手の攻撃参加人数を減らすために

相手を崩すサーブを打ち、
B-,Cパスを返球させる

前衛プレーヤーがレセプションに
参加するため、前衛プレーヤーの
前後を狙って態勢を崩させる²⁾

セッターの出どころや攻撃の
ルートをピンポイントで狙う

IV. 引用・参考文献

- 米沢利広, 今丸好一郎, 松本勇二; バレーボールのブロックに関する研究—大学女子チームにおけるブロックの三角ゾーンについて—福岡大学スポーツ科学研究 47(1), pp23-32 (2016)
- 古瀬由佳, 塚本博之, 湯澤芳貴; 大学女子バレーボールにおけるレセプションフォーメーションに関する研究, 日本女子体育大学スポーツトレーニングセンター紀要21, pp1-8(2018)